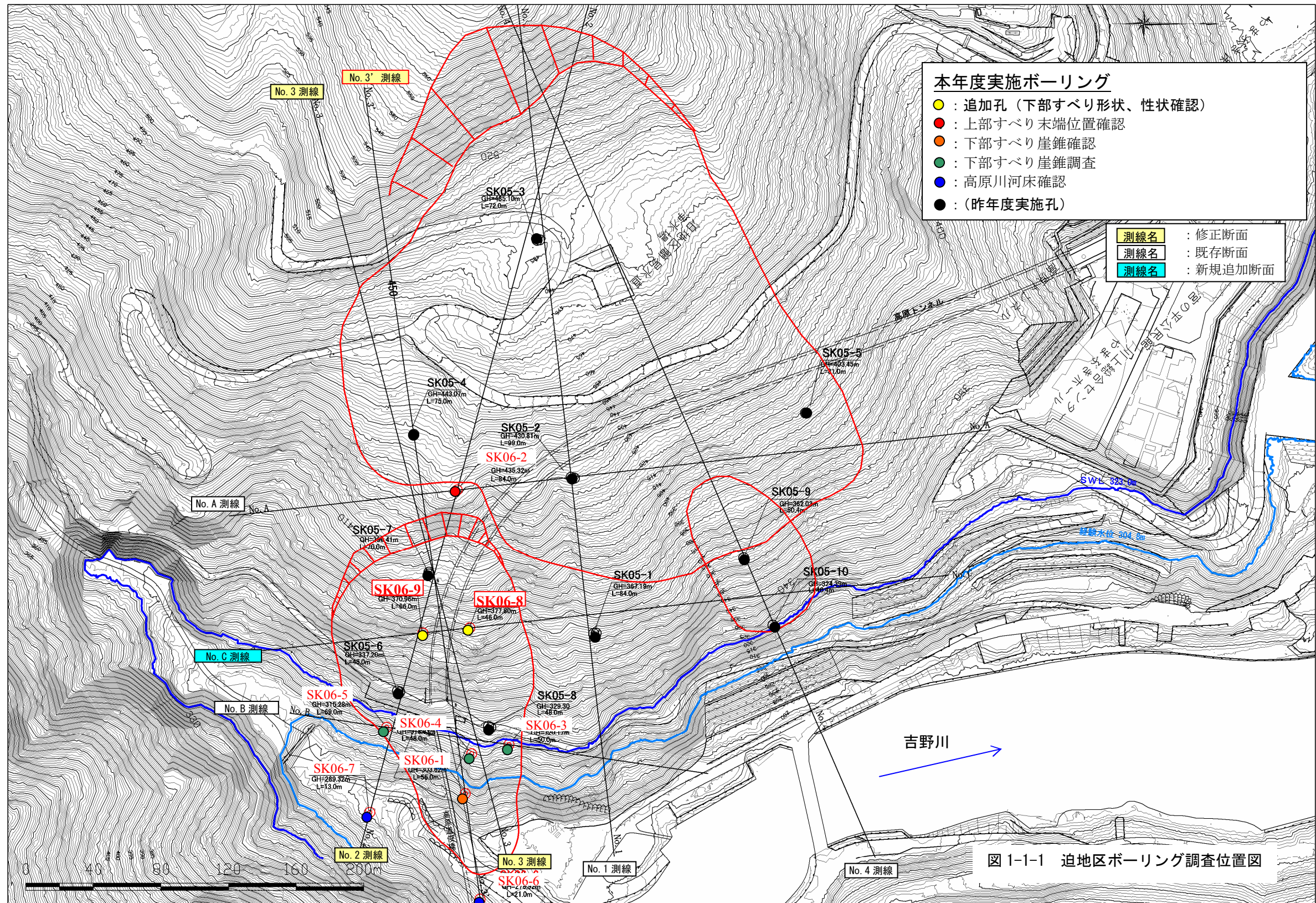


§ 1. 追加ボーリングによる設計条件の精査

事項	要点	備考
1-1 迫地区 1-1-1 地質解析 1) 調査位置と目的	<p>・ 迫地区において、下部すべりを対象とし、追加ボーリングを2孔実施した。</p> <p>下部すべりの形状とすべり面性状確認のため、追加ボーリングを2孔実施した。</p>	



§ 1. 追加ボーリングによる設計条件の精査		
事 項	要 点	備 考
1-1 迫地区		
1-1-1 地質解析	<ul style="list-style-type: none"> 追加調査の結果、想定された位置にすべり面が把握され、下部すべり面の形状が明確となった。 現場透水試験の実施により、全ての帯水層区分（グループ）にて地区内データが得られた。 	
2) 調査結果（すべり形状）	<p>迫地区下部すべり形状は、本年度実施ボーリング（SK06-1～7 孔）を踏まえ、大滝ダム貯水池斜面再評価検討委員会（報告会）（H18.10.17 開催：以下「報告会」）にて確認されている。</p> <p>今回の追加調査（SK06-8 孔,SK06-9 孔）では、報告会で想定された位置に、すべり面と考えられる明瞭な W1 層が確認され、下部すべり面の形状が明確となった。</p> <p>図 1-1-2 に追加調査前（報告会時点）および追加調査後修正した地質平面図を示す。</p> <p>図 1-1-3, 1-1-4 に主解析測線である No3' 測線沿いの地質断面図、風化区分断面図を示す。</p> <p>図 1-1-5, 1-1-6 に新たに設定した下部すべり横断測線（NoC 測線）沿いの地質断面図、風化区分断面図を示す。</p>	
3) 調査結果（性状）	<p>第 1 回大滝ダム貯水池斜面对策検討委員会（H18.11.5 開催：以下「第 1 回委員会」）時点では、浸透流解析で必要となる透水係数について、一部他地区の値を引用し、設定していた。</p> <p>今回の追加調査により、帯水層区分のグループ 2（W2-3 層）にて 5 点、またこれまでデータが得られていなかったグループ 3（すべり面沿い W1 層）にて 1 点の現場透水試験値を得た。これにより全てのグループで、地区内データ（迫地区における透水試験値）が得られた。</p>	→ 1-1-3 項「現場透水試験結果と透水係数」参照
4) 地質解析	<p>報告会では、迫地区下部ブロック斜面の地質は、上位に塊状を呈する緑色岩層（Gs）、下位に泥質岩層（SI）が卓越することが確認されている。</p> <p>また、下位の泥質岩層は、比較的均質な泥質岩部と、大小の異種岩石レンズ（チャート、砂岩、石灰岩）を含む「混在岩相」を呈する部分とに細分され、迫地区下部すべりは、緑色岩層部分を滑落崖とし、泥質岩中の混在岩相内を底面として形成されていることもあわせて確認されている。</p> <p>今回の追加調査において、すべり面の底面は、想定通り、混在岩相内に形成されていることを確認した。</p> <p>ただし、すべり面の下位には、厚 20m に及ぶ石灰岩レンズの分布が確認された。この新たな石灰岩レンズの出現により、泥質岩中の混在岩相部分は、想定よりも厚く分布することが明らかとなった。（図 1-1-3(2) No3' 測線地質断面図、図 1-1-5 NoC 測線地質断面図参照）</p>	

追加調査前

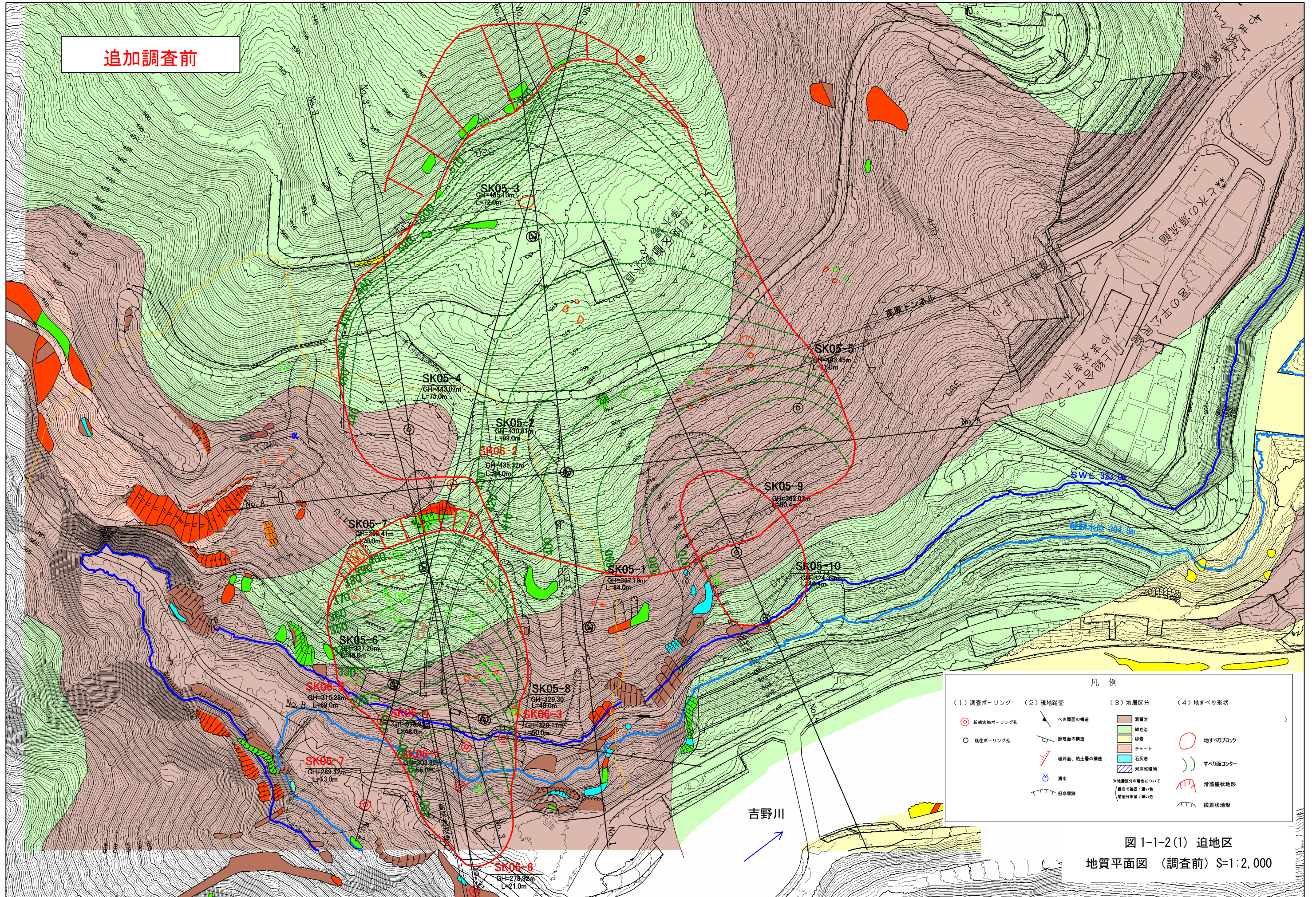
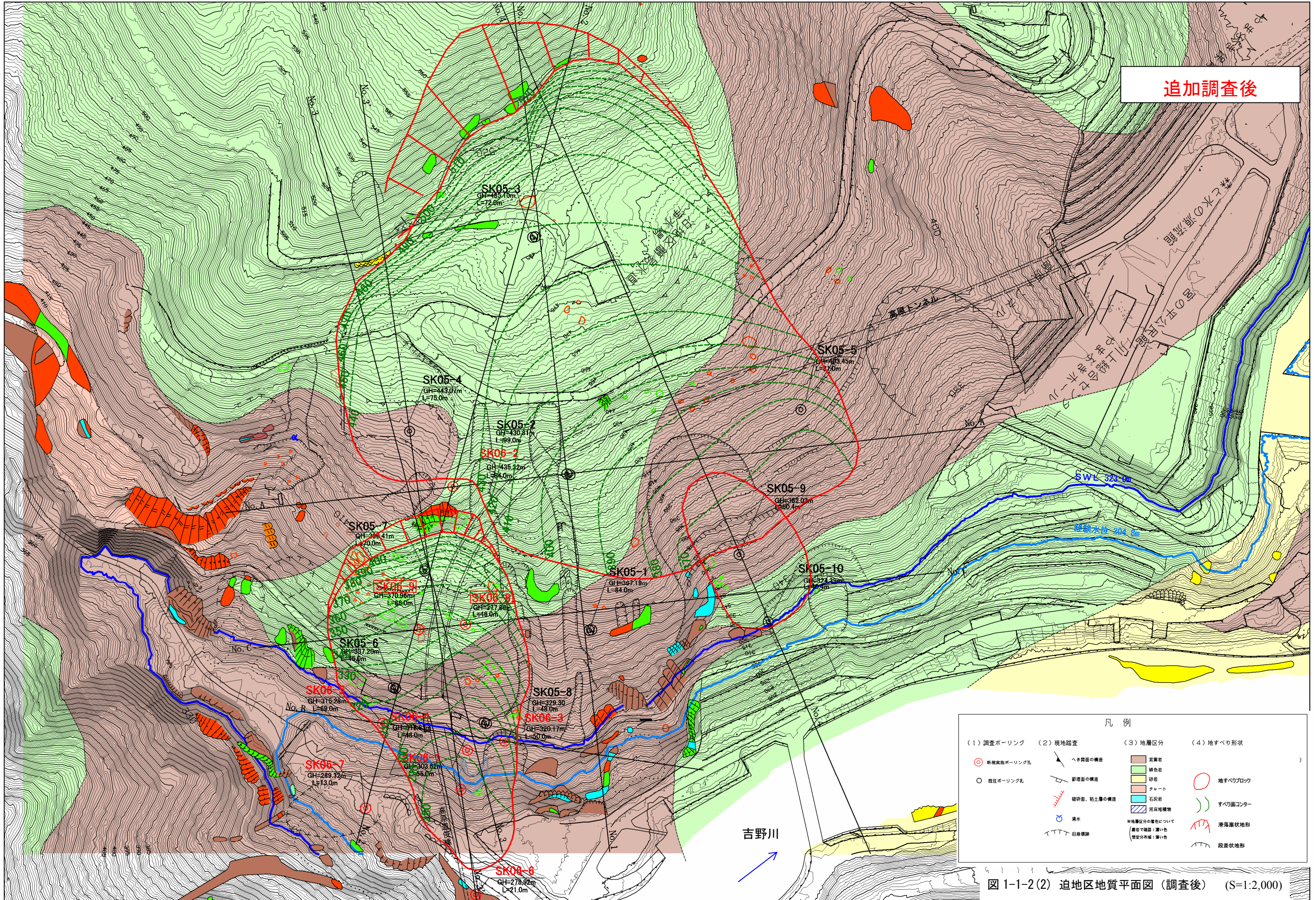


図 1-1-2(1) 迫地区
地質平面図 (調査前) S=1:2,000

追加調査後



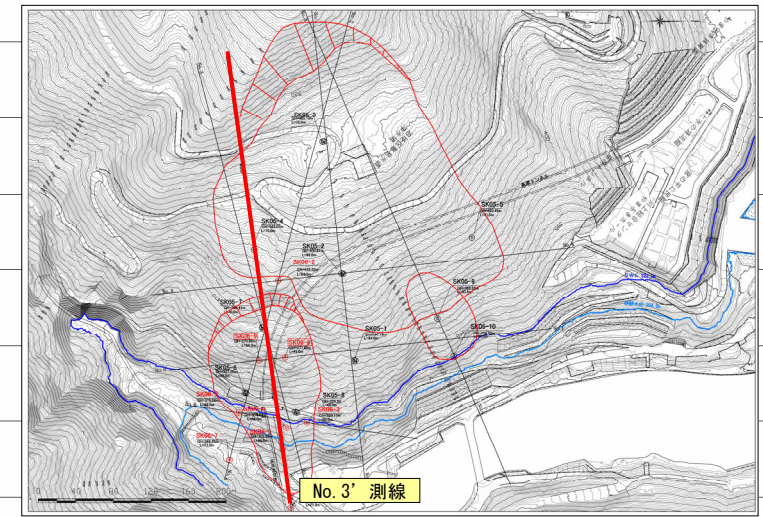
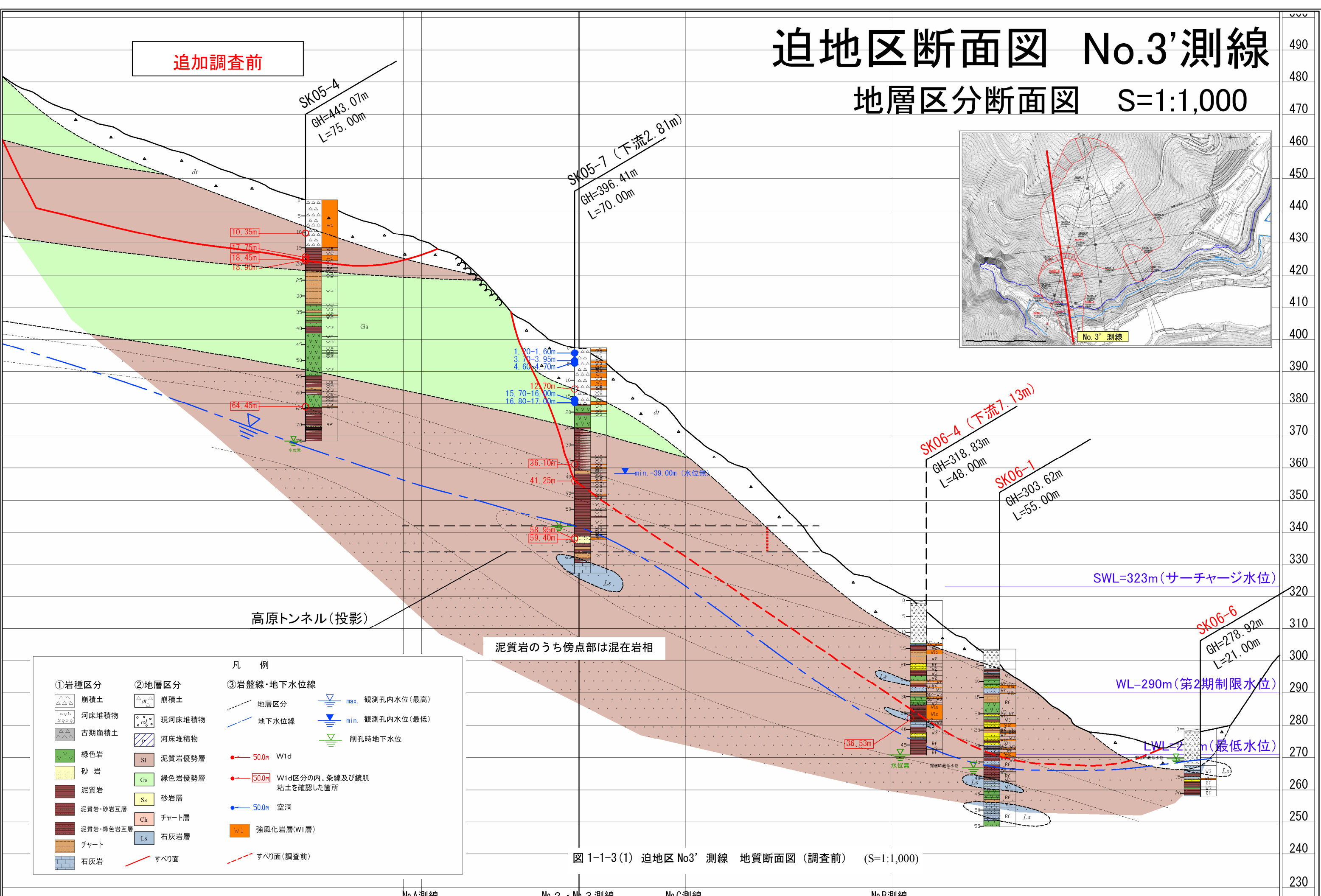
凡例			
(1) 調査ボーリング	(2) 現地踏査	(3) 地層区分	(4) 地すべり形状
◎ 新規実施ボーリング孔	▲ へき面等の構造	茶色 泥岩	○ 地すべりブロック
○ 既往ボーリング孔	▼ 崩壊面の構造	緑色 砂岩	〰 ずり面コンター
	▲ 破砕面、粘土層の構造	赤色 チャート	〰 滑降崖状地形
	○ 湧水	青色 石灰岩	〰 段差状地形
	〰 旧崩壊跡	〰 河床堆積物	
		※地層区分の色色について (黄色で確認：薄い色 黄色で確認：薄い色)	

図 1-1-2(2) 迫地区地質平面図 (調査後) (S=1:2,000)

迫地区断面図 No.3'測線

地層区分断面図 S=1:1,000

追加調査前



高原トンネル(投影)

泥質岩のうち傍点部は混在岩相

- | | | | | | | | | |
|-------|-----------|--|--------|--|------|------------|-----------------|---|
| ①岩種区分 | | | ②地層区分 | | | ③岩盤線・地下水位線 | | |
| | 崩積土 | | 崩積土 | | 地層区分 | | max. 観測孔内水位(最高) |
50.0m W1d区分の内、条線及び鏡肌粘土を確認した箇所

50.0m 空洞

W1 強風化岩層(W1層)

すべり面(調査前) |
| | 河床堆積物 | | 現河床堆積物 | | 地層区分 | | min. 観測孔内水位(最低) | |
| | 古期崩積土 | | 河床堆積物 | | 地層区分 | | 削孔時地下水位 | |
| | 緑色岩 | | 泥質岩優勢層 | | 地層区分 | | | |
| | 砂岩 | | 緑色岩優勢層 | | 地層区分 | | | |
| | 泥質岩 | | 砂岩層 | | 地層区分 | | | |
| | 泥質岩・砂岩互層 | | チャート層 | | 地層区分 | | | |
| | 泥質岩・緑色岩互層 | | 石灰岩層 | | 地層区分 | | | |
| | チャート | | すべり面 | | | | | |
| | 石灰岩 | | | | | | | |

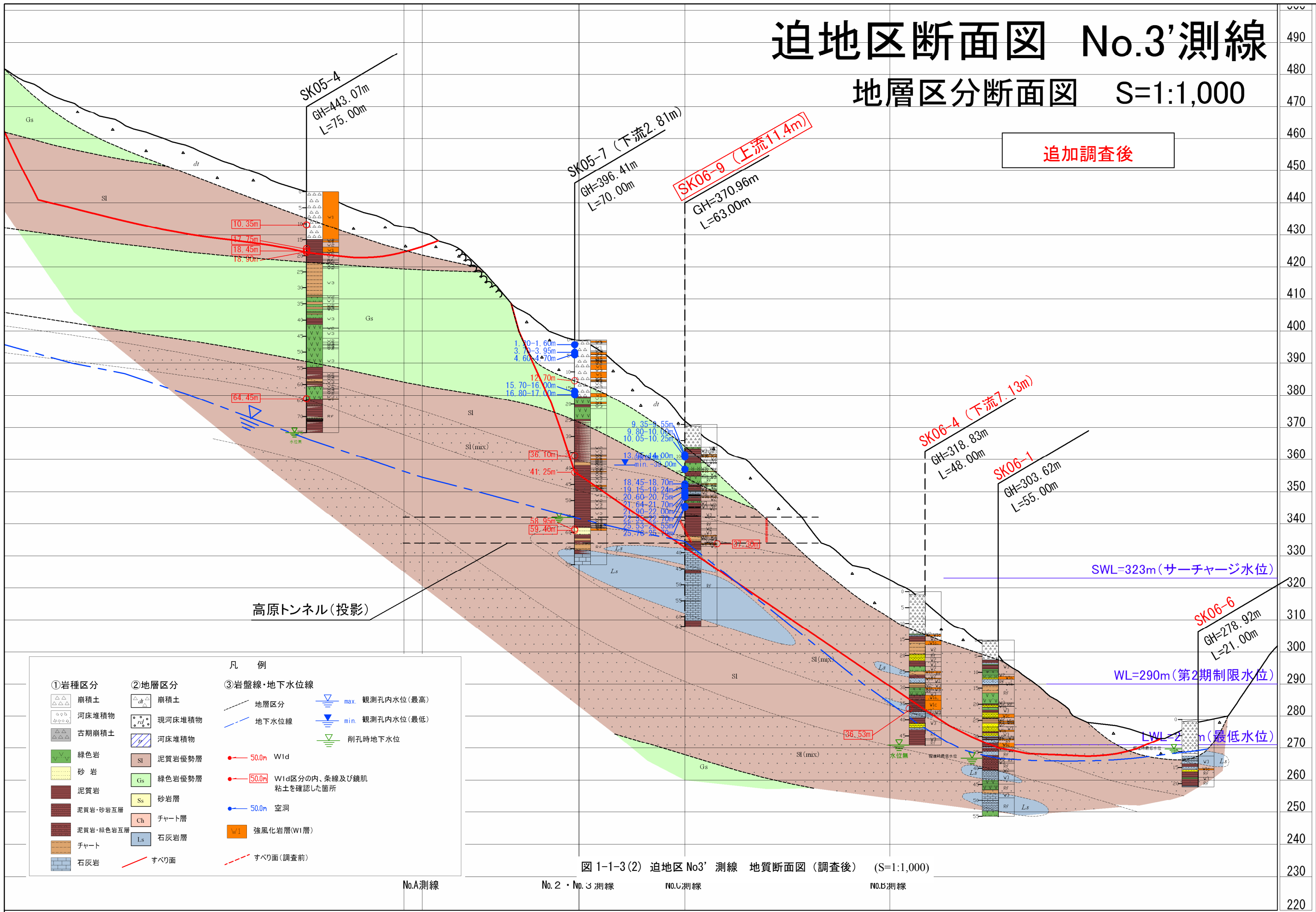
図 1-1-3(1) 迫地区 No.3' 測線 地質断面図 (調査前) (S=1:1,000)

No.A測線 No.2・No.3測線 No.C測線 No.B測線

迫地区断面図 No.3'測線

地層区分断面図 S=1:1,000

追加調査後



- | ①岩種区分 | | ②地層区分 | | ③岩盤線・地下水位線 | |
|-------|-----------|-------|-----------|------------|------------------------------|
| | 崩積土 | | 崩積土 | | 地層区分 |
| | 河床堆積物 | | 現河床堆積物 | | 地下水位線 |
| | 古期崩積土 | | 河床堆積物 | | max. 観測孔内水位(最高) |
| | 緑色岩 | | 泥質岩優勢層 | | min. 観測孔内水位(最低) |
| | 砂岩 | | 緑色岩優勢層 | | 削孔時地下水 |
| | 泥質岩 | | 砂岩層 | | 50.0m W1d |
| | 泥質岩・砂岩互層 | | チャート層 | | 50.0m W1d区分内、条線及び鏡肌粘土を確認した箇所 |
| | 泥質岩・緑色岩互層 | | 石灰岩層 | | 50.0m 空洞 |
| | チャート | | 強化岩層(W1層) | | すべり面(調査前) |
| | 石灰岩 | | すべり面 | | |

図 1-1-3 (2) 迫地区 No.3' 測線 地質断面図 (調査後) (S=1:1,000)

No.A測線

No.2・No.3'測線

No.C測線

No.D測線

迫地区断面図 No.3'測線

風化区分断面図 S=1:1,000

追加調査前

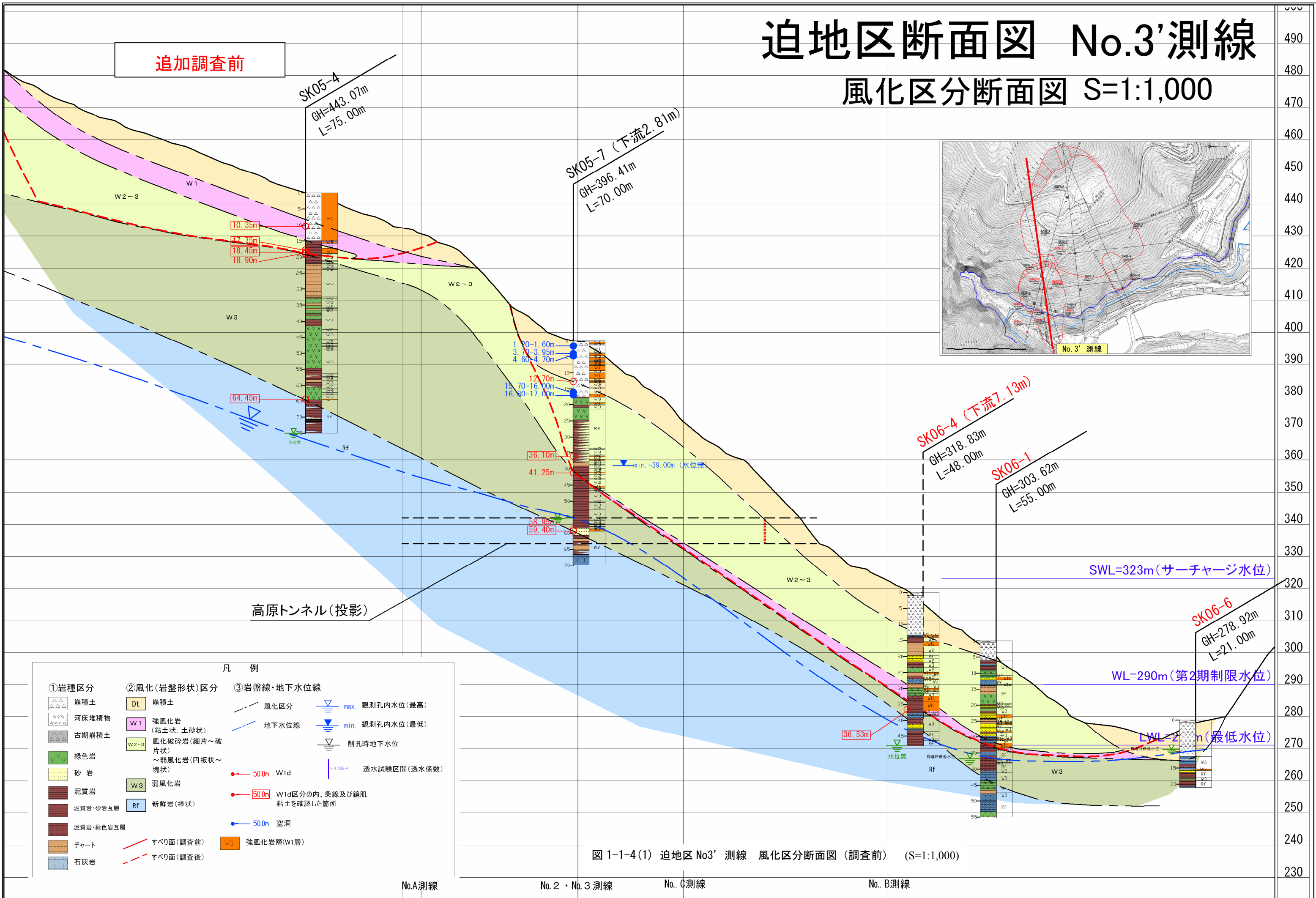
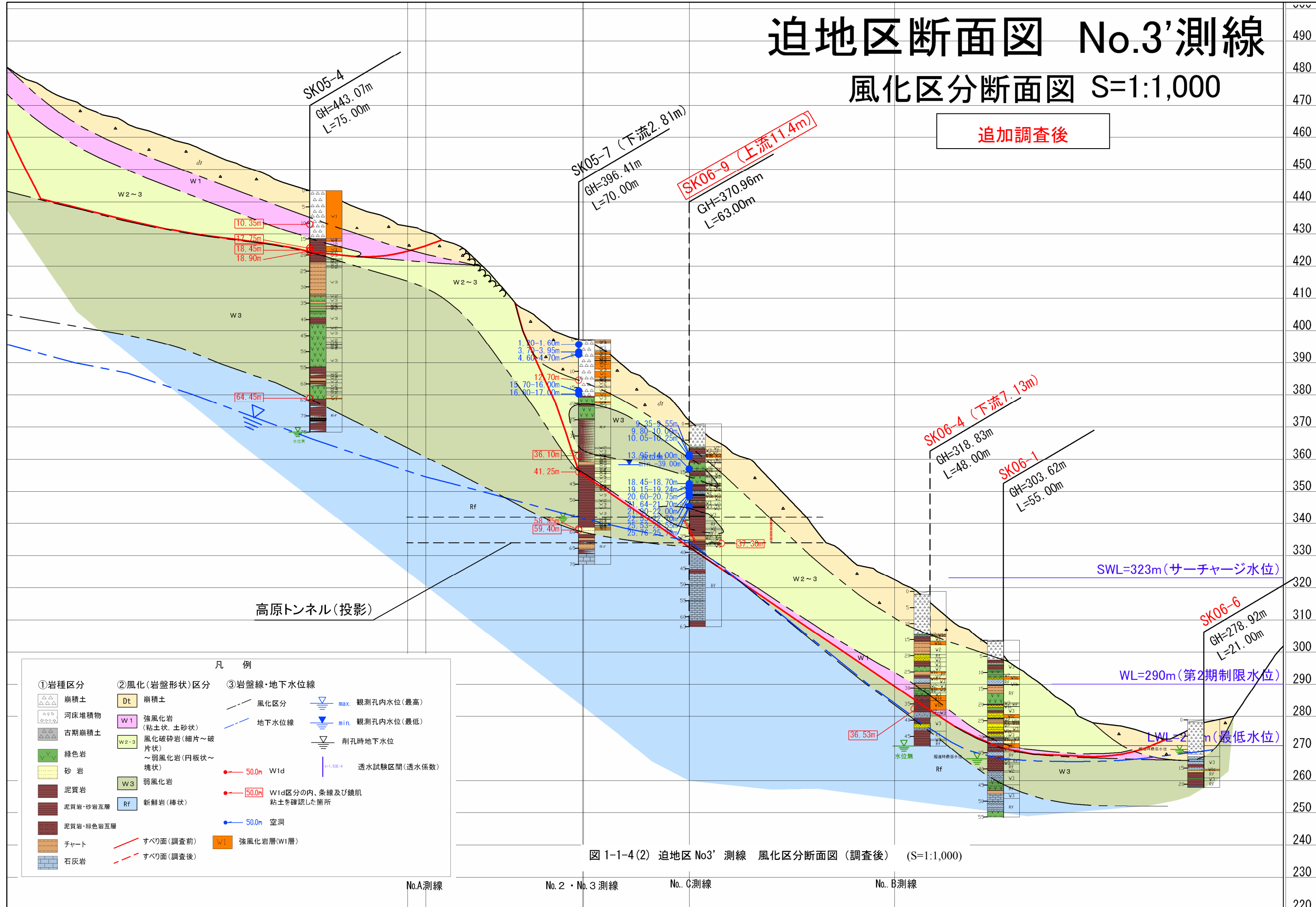


図 1-1-4(1) 迫地区 No.3' 測線 風化区分断面図 (調査前) (S=1:1,000)

迫地区断面図 No.3'測線

風化区分断面図 S=1:1,000

追加調査後



- | 凡例 | | |
|-------------|--------------------|---------------------------------|
| ① 岩種区分 | ② 風化(岩盤形状)区分 | ③ 岩盤線・地下水位線 |
| △△△ 崩積土 | Dt 崩積土 | --- 風化区分 |
| □□□ 河床堆積物 | W1 強風化岩 (粘土状、土砂状) | --- 地下水位線 |
| △△△ 古期崩積土 | W2-3 風化破碎岩(細片~破片状) | --- max. 観測孔内水位(最高) |
| ■ 緑色岩 | W3 弱風化岩 | --- min. 観測孔内水位(最低) |
| ■ 砂岩 | Rf 新鮮岩(棒状) | --- 削孔時地下水位 |
| ■ 泥質岩 | | --- 透水試験区間(透水係数) |
| ■ 泥質岩・砂岩互層 | | ● 50.0m W1d |
| ■ 泥質岩・緑色岩互層 | | ● 50.0m W1d区分の内、条線及び鏡肌粘土を確認した箇所 |
| ■ チャート | --- 崖面(調査前) | ● 50.0m 空洞 |
| ■ 石灰岩 | --- 崖面(調査後) | ■ W1 強風化岩層(W1層) |

図 1-1-4(2) 迫地区 No.3' 測線 風化区分断面図 (調査後) (S=1:1,000)

迫地区断面図 No.C測線

地層区分断面図 S=1:1,000

新規作成断面

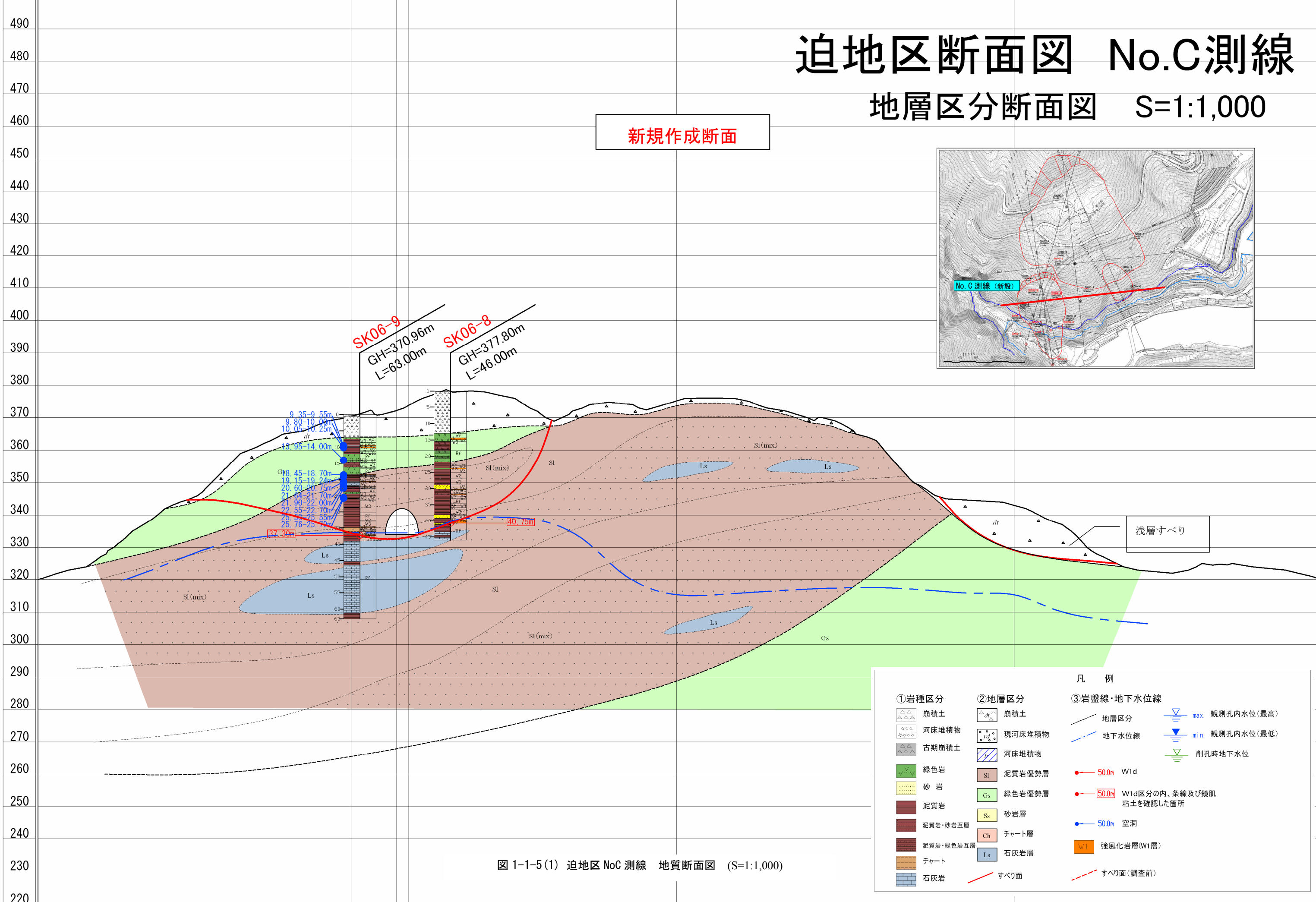
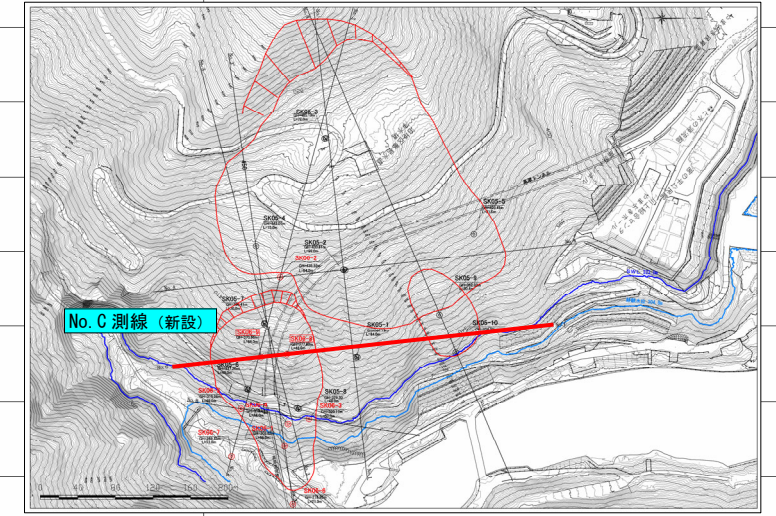


図 1-1-5(1) 迫地区 NoC 測線 地質断面図 (S=1:1,000)

①岩種区分		②地層区分		③岩盤線・地下水位線	
	崩積土		崩積土		地層区分
	河床堆積物		現河床堆積物		地下水位線
	古期崩積土		河床堆積物		max. 観測孔内水位(最高)
	緑色岩		泥質岩		min. 観測孔内水位(最低)
	砂岩		泥質岩優勢層		削孔時地下水位
	泥質岩		緑色岩優勢層		50.0m W1d
	泥質岩・砂岩互層		砂岩層		50.0m 空洞
	泥質岩・緑色岩互層		チャート層		50.0m W1d区分の内、条線及び鏡肌粘土を確認した箇所
	チャート		石灰岩層		W1 強風化岩層(W1層)
	石灰岩		すべり面		すべり面(調査前)

No. 2 測線 No. 3 測線

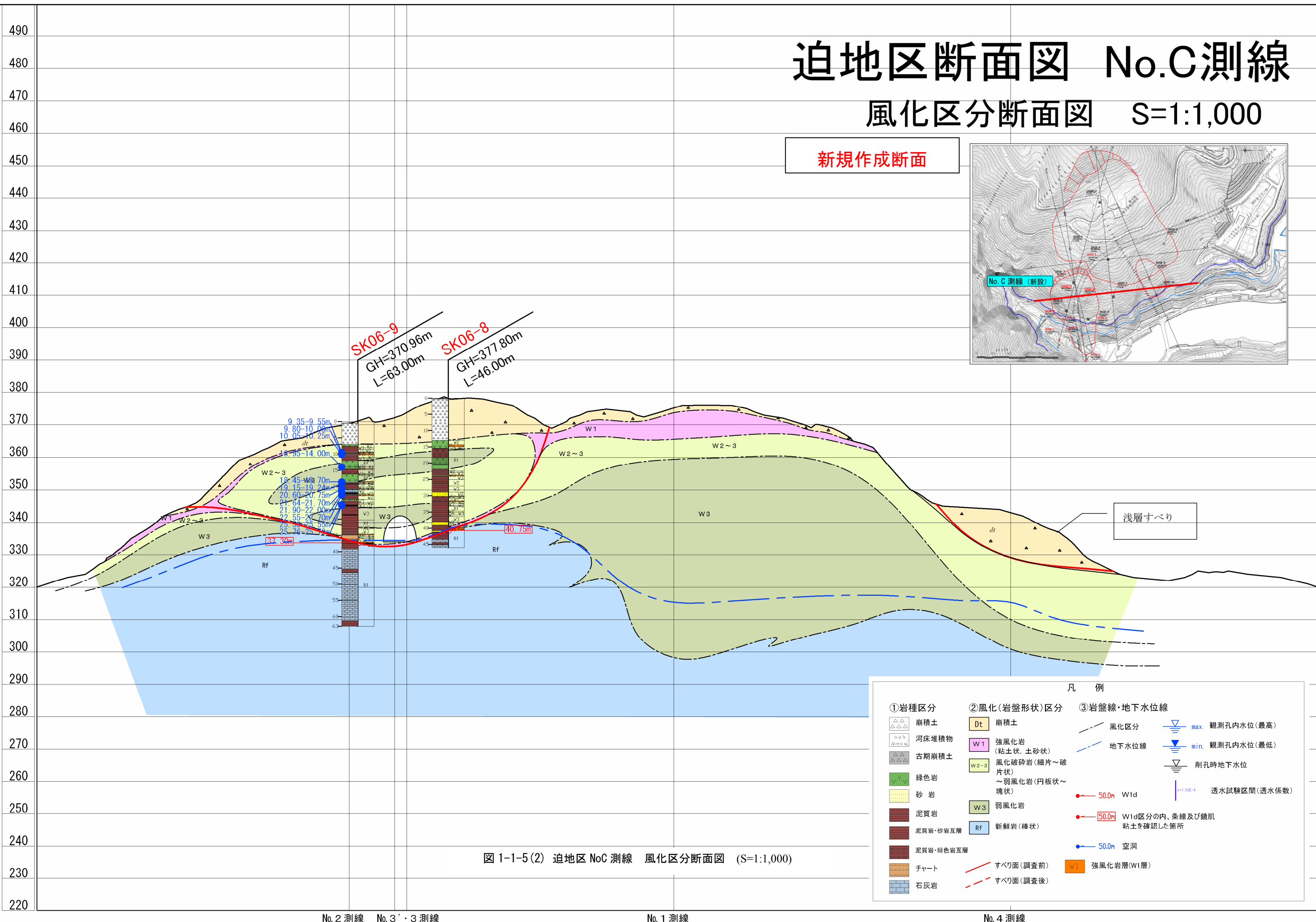
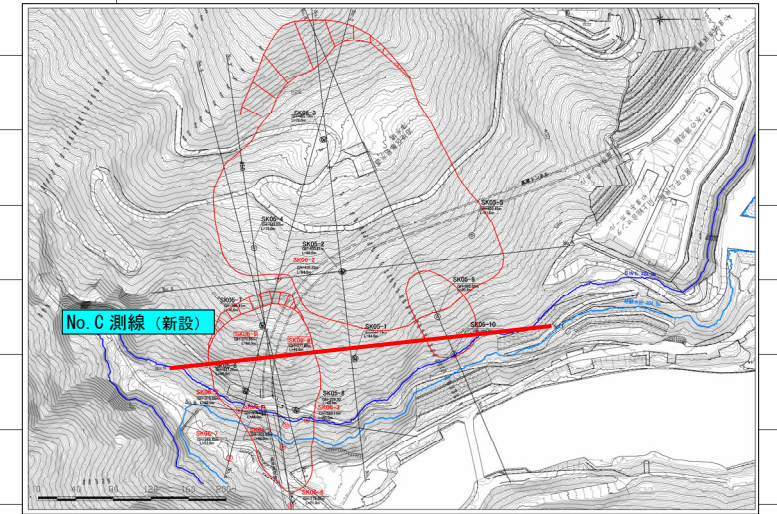
No. 1 測線

No. 4 測線

迫地区断面図 No.C測線

風化区分断面図 S=1:1,000

新規作成断面



凡例

①岩種区分	②風化(岩盤形状)区分	③岩盤線・地下水位線
△△△ 崩積土	Dt 崩積土	--- 風化区分
□□□ 河床堆積物	W1 強風化岩 (粘土状、土砂状)	--- 地下水位線
△△△ 古期崩積土	W2-3 風化破碎岩(細片~破片状)	--- max. 観測孔内水位(最高)
■ 綠色岩	W3 弱風化岩	--- min. 観測孔内水位(最低)
■ 砂岩	Rf 新鮮岩(棒状)	--- 削孔時地下水位
■ 泥質岩		--- 透水試験区間(透水係数)
■ 泥質岩・砂岩互層		--- 50.0m W1d W1d区分の内、条線及び鏡肌粘土を確認した箇所
■ 泥質岩・綠色岩互層		--- 50.0m 空洞
■ チャート	--- すべり面(調査前)	■ W1 強風化岩層(W1層)
■ 石灰岩	--- すべり面(調査後)	

図 1-1-5 (2) 迫地区 NoC 測線 風化区分断面図 (S=1:1,000)

No. 2 測線 No. 3'・3 測線

No. 1 測線
地質-10

No. 4 測線